

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	インフィニティキッズまや		
○保護者評価実施期間	2026年7月10日		～ 2026年7月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年7月10日		～ 2026年7月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年8月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職を配置し、子ども一人ひとりの特性やその日の体調に応じた支援ができています。	日々の状態を細かく観察し、連絡ノート等で丁寧に報告しています。また、面談を通じてご家庭での様子や要望をしっかりと汲み取り、一緒に課題を考えながら個別支援計画を作成・更新しています。	今後も専門性の高い支援体制を維持し、プログラムの意図や支援内容との繋がりを保護者様へより分かりやすくお伝えできるよう、計画の丁寧な実践と迅速な見直しに努めます。
2	日頃からの丁寧な情報共有により、保護者様との間に強い信頼関係が築け、子どもが安心感を持って通所できている点。	送迎時や連絡帳を通じて、施設ならではの子どもの様子や成長の発見（親が気づいていない行動や特性など）を積極的に共有し、常に保護者様に寄り添い、共感的な姿勢でサポートを行っています。	送迎時の慌ただしい時間帯だけでなく、ご希望に応じてゆっくりお話しできる相談の機会（お電話や個別面談など）をより柔軟に設けられるよう体制を整えます。
3	LINEやSNS（Instagram等）を通じた積極的な情報発信により、日々の活動の様子が可視化され、保護者に安心感を提供できている点。	ご家庭からは見えにくい施設での活発な活動の様子を、定期的に通信等でこまめに発信し、透明性の高い施設運営と情報共有に努めています。	引き続きLINEやInstagram等での発信を継続して楽しめただくとともに、日々の活動報告に加えて、行事予定や事業所の自己評価結果なども含めたより多角的な情報発信の媒体として活用・周知を図ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害特性や活動量に応じたスペースの確保と、設備のバリアフリー化などの物理的な環境整備。	バギーやマット等の収納場所が不足しているほか、動ける児と動けない児のエリア分けが難しい場面があります。また、ドアの施錠、コンセントの位置、玄関の傾斜など、安全面で改善すべき設備的な課題があります。	ドアの施錠対策、コンセントの安全カバー設置、玄関の傾斜対策などを検討します。また、空きスペースを確保して収納やエリア分けを工夫し、空間の有効活用と安全環境の整備を進めます。
2	特定の職員への業務負荷の偏り解消と、職員全体のさらなるスキルアップに向けた研修機会の確保。	実際に動ける人材に限られており、特定の職員に負担がかかっている状況があります。また、業務改善（PDCA）への幅広い職員の参画や、多様な研修を受講する機会の確保が十分ではありませんでした。	人員配置の見直しや動けるスタッフの育成により、業務の標準化を図ります。また、職員のニーズに応じた多様な研修テーマを企画し、誰もが受講しやすいようシフト調整等の環境整備を行います。
3	災害時の訓練実施状況や各種安全マニュアル、家族支援プログラム等に関する保護者への情報発信・周知。	避難訓練等は定期的を実施しているものの、詳細な情報が保護者に伝わっていませんでした（アンケートで「わからない」との回答が多数）。また、ペアレント・トレーニングやきょうだい支援等の取り組みも十分に周知できていませんでした。	各種マニュアルの再周知や実践的な防災訓練を実施し、その報告や災害時対応についてLINEやSNS等で積極的に発信します。また、家族向けの支援プログラムやイベントを企画し、分かりやすくご案内します。